

## 第2学年 英語科 学習指導案

日 時 平成20年11月6日(木) 5校時  
学 級 2年B組 (30名)  
場 所 2年B組教室  
指導者 渡邊 茂一

### 1 単元名 Unit 6 「The Story of Silent Night」

#### 2 単元について

##### (1) 教材観

この単元はクリスマスを共通のテーマとして扱っている。冬の季節を前に、クリスマスをめぐる内容を扱うことで生徒の興味・関心を促しやすい教材と思われる。またクリスマスソングで有名な「Silent Night (きよしこの夜)」が生まれた背景が題材の内容となっている。クリスマスの季節になると耳にする有名な曲が、オルガンが壊れたために急遽ギターで大変苦勞しながら作曲されたという内容や、その状況にいた登場人物の心情などを読み取るという内容は、生徒の興味を引きつける教材であると考えられる。また、日本のクリスマスの雰囲気とは異なり、教会でクリスマスを祝うキリスト教文化圏の本来の風習を知ることが、生徒にとって異なる文化についての興味・関心を持たせることにつながると考える。

文法事項については、Starting Out では、ブラウン家の居間の情景を描写する内容となっており、There is/are ～. 「～がある (いる)」を扱っている。Dialog では、クリスマスプレゼントについての対話をもとに、Is/Are there ～? 「～があり (い) ますか」で、形・意味・用法を学ぶ内容である。Reading for Communication では、「動名詞」を主語とする文の形・意味・用法を理解し表現する内容である。動名詞は新出であり、動詞の目的語になったり主語になったりする。使用頻度が高く、分詞との違いにも注目させながら表現の幅を広げさせていきたい。さらに Multi Plus3の自分の身近な町や地域などを紹介する自己表現活動に結び付けられるような指導をしていきたい。

##### (2) 生徒観

男女仲が良く、和やかな雰囲気生活している。諸行事にも意欲的で、協力して様々な活動に取り組んでいける生徒達である。英語の授業では、コミュニケーション活動にも意欲的に取り組み、真剣な態度で臨んでいる。しかし一方で英語を苦手としている生徒も少なくないため、積極的に発言をする生徒は一部の生徒に固定されてきている。音読練習にも大きな声で積極的に取り組むが、基礎・基本が十分でない部分もあるため個人での取り組みが難しい生徒もいるので、学び合い活動をさせることで定着を図りたい。また学力にも差があるので、「読む」「書く」「話す」活動でも、ペアで取り組ませながらサポートしていきたい。そして安心して自己表現活動につなげるために男子同士、女子同士という比較的話しやすいグループやペアで取り組ませ、お互いに学び合う活動につなげていくように配慮したい。

##### (3) 指導観

この単元は、主に「聞く」「読む」「話す」の3技能を統合した自己表現活動を扱っているが、目標としては「話すこと」や「書くこと」につながる活動を目指したい。生徒は、特に「書く」「話す」の技能については苦手意識を持っており、定期的なテストでの観点別で見てもなかなか得点できない分野である。しかし、身近な話題や興味のある物事について取り上げることで、文化的な行事や身のまわりの出来事について再認識したりより深めたりすることによって、苦手と

している分野でも少しでも英語で話したり書いたりできるようにして自分の言葉で自己表現させていきたいと考える。あまり難しく考えず、聞く側にとってわかりやすい、伝わりやすい文を書かせ、満足感や達成感を持たせられるようにしたい。そして、お互いの英文を話したり聞いたりすることで、学び合うという意識を持たせられるような活動も取り入れていき、今後の学習への意欲付けにつなげていきたい。

### 3 単元の指導目標

- (1) 部屋の様子などを描写する英文を聞いたり、話したりしながら情報交換を意欲的・積極的に行うことができる。
- (2) 部屋などの絵を見ながら、その様子を **There is (are)...** や **Is (Are) there...?** などを用いて身近なものを話題として相手に伝わるように表現することができる。
- (3) 物語文の登場人物の行動・発言とその裏にある意図などを読み取ることができる。
- (4) 動詞に **-ing** がついた形（動名詞）を既習の進行形の文と区別して理解し、表現できる。

### 4 単元の指導計画（10時間扱い）

- |                                      |                     |
|--------------------------------------|---------------------|
| (1) <b>Starting Out</b>              | ..... 2時間（本時 1 / 2） |
| (2) <b>Dialog</b>                    | ..... 2時間           |
| (3) <b>Reading for Communication</b> | ..... 3時間           |
| (4) <b>Listening Plus 6</b>          | ..... 1時間           |
| (5) <b>Speaking Plus 4</b>           | ..... 1時間           |
| (6) <b>Multi Plus 3</b>              | ..... 1時間           |

### 5 本時の指導

#### (1) 目標

- ① **There is (are)** 構文を用いて、自分の部屋を描写することができる。【表現】
- ② **There is (are)** 構文の形・意味・用法を理解できる。【言語や文化についての知識・理解】

#### (2) 具体の評価規準

	十分満足できると判断される状況(A)	概ね満足できると判断される状況(B)	努力を要する生徒への指導の手だて
<b>There is (are)</b> 構文を用いて、自分の部屋を描写することができる。 【表現の能力】	【書くこと】 自分の部屋について3文以上正しく書くことができる。 【話すこと】 自分の部屋について3文以上正確に話すことができる。	【書くこと】 自分の部屋について正しく書くことができる。 【話すこと】 自分の部屋について正確に話すことができる。	【書くこと】 机間指導し、語句などをしっかり書けるように支援する。 【話すこと】 ペアでの練習で、単語の発音などについて、お互いに確認させる。
<b>There is (are)</b> 構文の形・意味・用法を理解できる。 【言語や文化についての知識・理解】	<b>There is (are)</b> 構文の英文を正しく聞き取り、また正確に書くことができる。	<b>There is (are)</b> 構文の形や意味などを理解し、書くことができる。	机間指導し、構文の形や語順などを正しく書けるよう支援する。

(3) 本研究との関わり

◆「学び合い活動」の位置付けについて

本時は、学び合いの場面として、音読練習や個人の英文を伝え合う活動に位置づけた。ペアで音読練習をすることによって読み方を教え合ったり、自分の考えをお互いに伝え合うことで学び合いを深められると考えた。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項 (◆学び合い活動 ◎評価)
導入 8分	1 あいさつ	・元気にあいさつをする。	
	2 Warm-up	・ Warm-up (既習の表現を使った簡単な英問英答を行う)	
	3 新出文型の導入	・ 課題に向けた英語を聞き、本時の課題を把握する。	・ 英語をよく聞かせ、どういう場面で、どういう内容なのか考えさせる。
<b>自分の部屋にあるものを、友達に伝えよう</b>			
展開 40分	4 基本文型の確認	・ 英文を聞き、“is”と“are”の使い分けについて考える。	・ 前置詞も含めた意味を十分に理解させる。
	5 新出文型の定着練習	・ 定着を促す口頭練習を行う。 全体、ペア	・ 教師の英文の聞き取りも含む。 ◆ペアで口頭練習 【小グループ】
	6 確認問題	・ 練習問題に取り組む	◎机間指導を行い、英文がしっかり書けているか。
	7 言語活動	・ 自分の部屋の描写をする。 ①ワークシートの絵をもとに作文をする。 ②ペアでお互いの部屋についての英文を読み、紹介し合う。 ③英文を聞き、内容を読み取る。 (メモ)	・ 辞書を活用させる。 ◆ペアで練習し、お互いの英文を紹介する。 【小グループ】 ◎言語活動に意欲的に取り組もうとしたか。
8 発表(個別) (数人の生徒を指名し発表させる)	・ 自分の部屋について発表する。	◆発表を聞き、お互いの表現について確認する。 【全体】	
終末 2分	9 自己評価(本時の課題の確認)	・ 自己評価	
	10 あいさつ	・ あいさつをする。	